

1. 燃料としての木材 (5)

木質バイオマス原料の種別区分と環境リスク評価

木質バイオマス燃料には、種類によって灰分や異物、有害化学物質等の含有状況に差が見られ、時として環境に悪影響を及ぼすこともある。したがってその利用にあたっては、当該原料の環境リスクを判断して、適正な利用に結び付けることが必要となる。

図表 1.6 は、わが国で利用されている木質バイオマス原料を種類区分し、それぞれの環境リスク（灰分、異物混入、有害物質の含有状態から判断）を評価したものである。各評価に対応して適正に使用できるボイラの種類や燃焼灰の取り扱いが異なる。その点については次項以降にメモする。

図表 1.6 木質バイオマス原料の種類区分と環境リスク

起源	種類		内容	環境リスク*
森林	全木	根なし	樹幹+枝条・末木+葉	B~C
		根あり	樹幹+枝条・末木+葉+根	C
	樹幹	皮なし	枝条・末木を除く樹幹木部	A
		皮付	枝条・末木を除く樹幹	A~B
	林地残材	主として枝条・梢端+低質樹幹		B~C
	剪定枝	枝条+葉		C
	その他	樹皮、根株、竹		C
		伐根、流木		C~D
ブレンドおよびミックス				
木材 加工 工場	未処 理材	木部皮なし	おが粉、プレーナ屑、端材、背板 単板剥き芯	A
		木部皮付	皮付背板	B
	樹皮	剥皮	C	
	化学処理材	接着・塗装・防腐・防蟻処理材由来のおが粉、プレーナ屑、端材など		C~D
	ブレンドおよびミックス			
使用済 木材	未処理木材	廃木製パレット、廃ダンネージなど		B
	化学処理木材	主として土木・建築の解体材		D
	ブレンドおよびミックス			

注) ブレンド：種別の異なる複数の原料を任意の割合で人為混合したもの

ミックス：種別の異なる複数の原料が無作為に混じったもの

*環境リスク（灰分、異物、有害物質の多少から判断）：A（低い）～D（高い）